

2025年度後半の記念行事

2025年度前半に続き、多彩な周年記念行事を開催。著名人をお招きしての特別記念講演会、学部・センターによる講演会やトークセッションなどを通して、大学の理念「違いを共に生きる」を広い視点で学びました。

愛知淑徳大学開学50周年特別記念講演会

漫画家・文筆家・画家のヤマザキマリ氏による講演会「地球生まれで旅育ち」を11月1日に星が丘キャンパス2号館6階講堂にて開催しました。

ヤマザキ氏は17歳で単身イタリアに渡り、フィレンツェの国立アカデミア美術学院で美術史・油絵を専攻。以来、世界各国で生活や旅をしながら創作活動を続けていらつしやいます。

今回の講演では、14歳のときのヨーロッパ一人旅から、17歳で始めたイタリアでの暮らし、20代でシングルマザーになり、子どもを養うため挑んだ漫画制作、イタリア人の比較文学研究者との結婚、各国での生活や国際転校の連続だったお子さんの成長、創作活動の裏話まで、数多くのエピソードを語られました。質疑応答の時間では「自分らしく生きるには？」という問いに対し、「世界を広く知って、自分を知る。自分自身を俯瞰することが大切です」とご回答。視野を狭めず、多様なものに触れて広い世界に踏み出し、自分らしい生き方を見つけること、さまざまな「違い」を知り、リスペクトし合って共生することの大切さを語ってくださいました。



教育学部講演会（2025年10月2日）

愛知淑徳大学開学50周年記念講演会

大阪市立大空小学校の初代校長を務めるなど、45年の教職歴をお持ちの木村泰子先生をお招きし、「未来をつくる『仕事は楽しい』をテーマとした講演会を長久手キャンパス10号棟1階ラーニングスタジオにて開催しました。

「すべての子どもの学習権を保障する」という理念のもと、障がいの有無にかかわらず、みんなが笑顔になれる居場所となる学校づくりに力を注がれた木村先生。「自分で考え、判断、決定し、行動する。失敗したらやり直す。人のせいにはしない。他者と互いに学び合い、育ち合う。そんな『自律』の力を伸ばしていこう」「子どもたちの未来に必要なのは『人を大切にする力』『自分の考えを持つ力』『自分を表現する力』『チャレンジする力』という4つの見えない学力です」「教員が『自分一人ではできないことがある』と自覚することが重要。一人で抱え込まず『人の力を活用する力』を持つてほしい」といった激励の言葉を学生に送ってくださいました。子どもたち一人ひとりに寄り添い「未来をつくる」教育。その意義や可能性を見つめ直す、示唆に富んだ話を伺う機会となりました。



同志社大学社会学部教授の永田祐先生による基調講演「大学と地域が共創する未来」と、シンポジウム「共創する未来に向けた愛知淑徳大学CCCへの期待」を長久手キャンパスのミニシアターで開催しました。

永田先生は約20年前に本学専任講師を務め、CCCを開設に導いた功労者のお一人です。今回の講演では、地域の多様なコミュニティと学生、大学をつなぎ、よりよい未来を「共創」する拠点としてのCCCへの思いを語られ、「CCCで一步を踏み出し、多様な人と出会い、多様な経験をして『違いを共に生きる』ことを体感してほしい」と学生に向けて応援の言葉を送ってくださいました。

シンポジウムでは、トヨタ自動車株式会社社会貢献部の方、長久手市観光商工課の方、国際協力や医療の分野で活躍する本学卒業生2人の計4人がシンポジストとして登壇。共生社会に向けた活動、学生へのエール、地域と共に歩みながら学生の挑戦や成長を後押しするCCCへの期待などが語られました。会場に集まった一人ひとりが共に考え、さまざまな視点で学び合い、共創する未来を見つめました。



交流文化学部、ビジネス学部、グローバル・コミュニケーション学部がトークセッション「ともに考えよう、共生社会に必要なこと」を星が丘キャンパス2号館6階講堂にて共催しました。

パネリストは、ラジオDJのクリス・グリーン氏、ラジオパーソナリティのイレネ氏、タレントのヴィトル氏。本学卒業生のCBCテレビアナウンサー・柳沢彩美氏の司会のもと、「違いを共に生きる」ために必要なことについて多様な視点から語り合いました。学生発表もあり、海外にルーツを持つ学生や留学経験のある学生が「母国・海外と日本をつなぐ架け橋になりたい」「自分から声をかけるなど、日々の積み重ねが共生社会につながる」といった思いを語り、活発な意見交換の場となりました。

最後にクリス氏は「お互いの努力、協力、理解があつてこそその共生社会」、イレネ氏は「全員が大切な存在。コミュニティの中の私の役割って何だろう」、ヴィトル氏は「知ることから始めよう」とメッセージ。会場のすべての人と共に考えを深める、貴重な時間となりました。